12/20 朝福

オミクロン株 世界で主流化

2日で感染倍増

新型コロナウイルスの新変異株、オミクロン株が世界で猛威を振るい、主流化が急速に進んでいる。最初に報告した南アフリカでは既にデルタ株から置き換わり、欧米諸国でも市中感染が加速する。二日間で新規感染者が倍増するとされ、感染力の強さが際立つ。世界保健機関（WHO）によると、八十九カ国・地域に拡大した。各国はワクチンの追加接種が有効とみて対応を急いでいる。

厚生労働省によると、日本では十八日時点で六十五人のオミクロン株感染が確認された。海外からの入国者や濃厚接触者にとどまるが、市中で広がった場合、感染者を早期に発見できる検査体制が求められそうだ。

英国ではオミクロン株の一日当たりの新規感染者が十八日に一万人を超えた。累計は二万四千九百六十八人。イングランドでの新規感染の遺伝子分析でオミクロン株の特徴があるケースが六割を超え、ロンドンでは八割以上になった。（共同）

英ロンドンの病院でのワクチン接種に並ぶ市民＝13日（ゲッティ・共同）

「追加接種で同等の予防効果」

WHO オミクロン株にも

【ジュネーブ＝共同】WHOは十八日、新型コロナウイルスの新変異株、オミクロン株に対し、初期的なデータとしながらもワクチンの効果が低減しているとみられるとした上で、ブースターと呼ばれる追加接種を受けた場合は、これまでと同等の効果の維持がみられると発表した。

一方オミクロン株の市中感染が起きている国では、一日半から三日で同株の感染が倍増している状況と指摘。現行の流行の主流となっているデルタ株に比べても「著しい早さで拡大している」として、警戒継続を訴えた。

WHOの十七日付の加盟国向け通達は、米ファイザーか英アストラゼネカのワクチンの接種完了者を対象に英国の大学が実施した調査を引用。オミクロン株による発症を伴うような感染を防ぐ効果は大きく減少していたが、メッセンジャーRNA（mRNA）ワクチンのブースターを受けた場合、デルタ株に対するのと同等もしくは少し劣るだけの効果があった。

世界の新型コロナウイルス感染者

米国	5077万7087	(80万6302)
インド	3473万3194	(47万7158)
ブラジル	2220万4941	(61万7395)
英国	1134万3594	(14万7634)
ロシア	1003万7546	(29万1336)
インドネシア	426万0380	(14万3998)
タイ	219万1528	(2万1377)
韓国	56万5098	(4722)
オーストラリア	25万0731	(2146)
中国	11万2879	(4849)
世界全体	2億7428万7945	(535万1592)

※19日現在、単位は人、感染者の多い5カ国とアジアの主な国。（）内は死者数。米ジョンズ・ホプキンズ大による